

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、  
生活のいろいろな場面で  
「健康寿命」をのばす運動を  
実践しています。

# よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(平成8年5月20日第三種郵便物認可)

2005(平成17)年6月15日 第388号

(財)東京都予防医学協会  
(財)予防医学事業中央会東京都支部  
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402  
東京都新宿区市谷砂土原町1の2  
保健会館 電話03(3269)1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

## 今月の主な紙面

1面 2005年世界禁煙デー記念シンポジウムが開催

2~3面(見開き)

心筋梗塞・脳梗塞 予防の目安はウエストの太さ  
連載『いびき』よもやま話 第9回  
連載「おこばですが...保健指導反省記」  
第3回  
健康づくり・健康増進を支援するページ 対策編  
第3回

4面 第210回ヘルスクエア研修会 肝炎検診の実態と展望  
新刊紹介/『改訂版 知っておきたい脊柱側弯症』  
中央会の全国運営会議が開催  
お知らせ  
人・往来

# 2005年世界禁煙デー 記念シンポジウムが開催



記念シンポジウムでは、まず「たばこ規制枠組条約」が政府の取組についてと題して、瀬上清貴厚生労働省大臣官房参事官が報告を行った。瀬上参事官は、喫煙による健康被害や経済的損失の大きさを示しながら、わが国の喫煙率は依然として高い状態であるとして、たばこ対策の重要性を強調し、「健康日本21」のたばこ対策の内容、「たばこ規制枠組条約」の目的と概要、今後の対策と展望などを解説した。

## 「たばこ規制における保健医療専門家の役割」テーマに

5月31日は、世界保健機関が定める世界禁煙デー。2月に発効した「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」を受けて、「たばこ規制における保健医療専門家の役割」のテーマのもと、世界各国でさまざまな禁煙推進活動が行われた。条約の批准国であるわが国でも、厚生労働省が5月31日から1週間を禁煙週間と定め、喫煙習慣は個人の嗜好にとどまらない健康問題であり、たばこ対策は生活習慣病を予防するうえの重要な課題であるとして、活発な活動を展開した。このうち今号では、厚生労働省、日本医師会、たばこ健康問題NGO協議会などの主催による世界禁煙デー記念シンポジウムの模様を報告する。

このうち「健康日本21」のたばこ対策の目標値については、「作成当時の情勢により、目標値が設定できなかったが、中間見直しでは具体的な削減目標を示せるよう、努力したい」とした。



講演を行う藤原教授は、医師や看護師の喫煙率の国際比較を提示し、「わが国の医療専門家の喫煙率は欧米諸国に比べて極めて高く(図)、病院内の禁煙化率も欧米の10%に対し、わが国ではわずか5%にすぎない」として、医療専門家のたばこ対策の対応の遅れを指摘した。

また、今後のわが国の対応としては、関係省庁連絡会議を設置するなど、たばこ対策を強化し、「EITを用いた支援ツールの開発、未成年者喫煙防止対策ワーキンググループ

の開催、受動喫煙防止対策禁煙支援対策などを推進すると結んだ。続いて藤原久義岐阜大学大学院教授(写真)が「たばこ規制における保健医療専門家の役割、喫煙病(依存症+喫煙関連疾患)の治療と予防」と題する講演を行った。藤原教授は、わが国初の『禁煙ガイドライン』が11月に出版される運びとなったとして、その概要を解説した。

さらに、藤原教授は「喫煙病は、依存症と喫煙関連疾患が複合した、予防や治療が困難な疾患である」として、その特徴を解説し(表)、喫煙問題に対する医療専門家の基本姿勢について、「喫煙者を喫煙病という疾患をもつ患者であると認識すること、禁煙推進を自らの足元から始めることが重要」と強調した。

また、たばこ規制における医療専門家自身の禁煙化、病院などの禁煙化と禁煙外来の設置、禁煙ガイドラインの普及、一般市民・喫煙病患者に対する教育、禁煙治療専門家の養成、喫煙病の科学的研究の推進、社会への禁煙推進の「禁煙推進の推進」(右)が採択された。

### 2005年世界禁煙デー記念シンポジウム パネル討論における決議文

私たちは本日「保健医療専門家とたばこ規制」と題するパネル討論を行い、その中で、「健康日本21」に掲げるたばこ対策の目標の達成に向けた取組を一層推進するとともに、たばこ対策を更に強化することが必要であるという点を改めて確認いたしました。よって、政府に対し、以下の点について強く要求する。

- 1 「健康日本21」において喫煙率の低下に関する数値目標を設定すること
- 2 未成年者喫煙防止対策として、たばこの自動販売機に関して、将来的には撤去することを目指し、その規制を段階的に強化していくこと
- 3 公共の場及び職場における受動喫煙防止対策を徹底すること
- 4 たばこ価格を引き上げ、それにより増加した税収を健康づくり施策に活用すること

また、本日のシンポジウムを契機として、保健医療関係団体としても、それぞれのたばこ対策の取組を一段と強めるとともに、十分に連携し、なお一層の努力を重ねることを宣言する。

平成17年5月31日

(財) 慶応義塾大学健康づくり振興事業団  
健康科学総合センター長 富永 祐 民  
(社) 日本医師会常任理事 土屋 隆  
(社) 日本歯科医師会常務理事 石井みどり  
(社) 日本薬剤師会常務理事 木村 隆 次  
(社) 日本看護協会常任理事 漆 崎 育 子

図 医師の喫煙率の国際比較

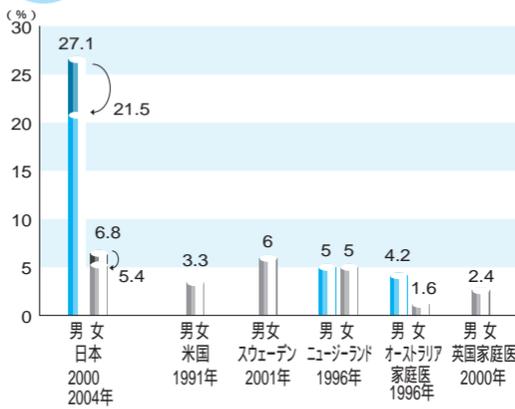


表 喫煙病の特徴

喫煙は「喫煙病という疾患」、喫煙者は「患者」

薬物依存症(ニコチン依存+心理的依存) 麻薬と異なり人格崩壊はまれ
種々の慢性・急性疾患の発生 (循環器・呼吸器・歯科・口腔・産婦人科等)
受動喫煙
予防可能な単一疾患としては最大の疾患 世界で490万人/年 が死亡 わが国11.4万人/年 が死亡 損失コスト5.6兆円/年; 税収等2.8兆円/年
喫煙患者の治療・予防が困難

禁煙ガイドラインの普及、一般市民・喫煙病患者に対する教育、禁煙治療専門家の養成、喫煙病の科学的研究の推進、社会への禁煙推進の「禁煙推進の推進」(右)が採択された。

## 健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は(予約制)  
電話 東京(03)3269-1143

健康管理コンサルタントセンター  
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2  
(財)東京都予防医学協会

コンサルテーションのごあんない

7月6日 岡 惺治(健康管理コンサルタント)

13日 第202回ヘルスクエア研修会につき休み

以後 9月1日まで夏休み



